

▼ナルサス錠 [内]

【重要度】★★ 【一般製剤名】ヒドロモルフォン塩酸塩 Hydromorphone Hydrochloride 【分類】癌疼痛治療剤 [持続性オピオイド]

【単位】▼2mg・▼6mg・▼12mg・▼24mg/錠

【常用量】4～24mg/日 [増量幅の目安は使用量の30～50%]

■モルヒネ経口剤からの切り替え：モルヒネ1日用量の1/5量

■フェンタニル貼付剤からの切り替え：剥離後のフェンタニル血中濃度の低下までの時間を勘案し、低用量から開始

【用法】1日1回■嚙み砕かない

【透析患者への投与方法】排泄遅延のため低用量から開始 (1) 25%に減量 (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】排泄遅延のため低用量から開始 (1)

腎機能正常者よりも Ccr 40～60mL/min で AUC2 倍, Ccr 30mL/min 未満で AUC4 倍 [即放性製剤のデータ] (1) Ccr 30～60 : 50%に減量, Ccr<10 : 25%に減量 (5)

【特徴】中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛に適用される徐放性オピオイド。μオピオイド受容体に対し高い親和性 (アゴニスト活性) を示す。

【主な副作用・毒性】依存性, 呼吸抑制, イレウス, 意識障害, 傾眠, 呼吸困難, 消化器症状など, 一般的なおピオイドの作用に注意。

【安全性に関する情報】

【吸収】食後投与で AUC1.3 倍 (1) 食事の影響を認めない (Moore KT, et al: J Clin Pharmacol 51: 1571-9, 2011 PMID: 21098692)

【F】24% (1)

【tmax】

【代謝】グルクロン酸抱合を受ける [3-グルクロニド] (1) 代謝物の活性は極めて低い (1) 一部は 3-グルコニド体に変換 (1) 定常状態で 3-グルクロニドは未変化体の 27 倍存在 (Hagen N, et al: J Clin Pharmacol 35: 37-44, 1995 PMID: 7538514) UGT2B7 の遺伝的多型は PK に影響しない (Vandenbossche J, et al: J Clin Pharmacol 54: 1170-9, 2014 PMID: 24706503)

【排泄】尿中未変化体排泄率 3% [po, 48hr まで] (1) 尿中に 3-グルクロニドとして 30%回収 (1)

【t1/2】

【蛋白結合率】24～30% (1)

【Vd】

【MW】

【透析性】透析クリアランス 105mL/min でダイアライザを通過する (Perlman R, et al: Pain 154: 2794-800, 2013 PMID: 23973378) グルクロン酸抱合体は透析で良好に除去される (Davison SN, et al: J Opioid Manag 4: 335-44, 2008 PMID: 19192761)

【OW 係数】

【薬物動態】線形 (Hagen N, et al: J Clin Pharmacol 1995 PMID: 7538514)

【相互作用】CYP の誘導作用, 阻害作用は認められていない (1)

【肝障害患者への投与方法】

【小児 CKD 患者における報告】

【妊婦・授乳婦への投薬】

【主な臨床報告】

【備考】モルヒネとの効力比は 1 : 5 [モルヒネより強い] (1)

【更新日】20241010

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。